

洗足学園音楽大学
第3回バレエコース本公演

ジゼル 全幕

グローバルクラス
東京シティ・バレエ団



2018年 1月6日(土)
16:00 開演 [15:30 開場]

洗足学園 前田ホール



洗足学園音楽大学

キャスト

第一幕

ジゼル	志賀 育恵				
アルブレヒト	黄 凱				
ヒラリオン	浅井 永希				
ベルタ	加藤 浩子				
クーランド公	小林 洋壱				
バチルド	坂本 麻実				
ウィルフリード	春野 雅彦				
貴族	渡邊 奈々穂 (学3)	清水 みな (学2)	伊藤 わこ (学1)	樋口 咲弥 (学1)	三矢 知世 (学1)
	山元 祥子 (学1)	石井 悠和	上瀧 達也		
パドシス	斎藤 ジュン	新里 茉莉絵	小林 諒子	石井 日奈子	大久保 桃子
	折原 由奈				
ペザント	高橋 葵 (学1)	沖田 貴士	朝井 美菜満 (学2)	伊藤 千夏 (学2)	
村娘	内田 理菜 (学3)	大北 有華音 (学3)	黒住 千裕 (学3)	泉水 友里 (学3)	安達 茉那 (学2)
	大川 菜々子 (学2)	鈴木 優花 (学2)	中田 友美 (学2)	樋口 絵莉花 (学2)	町田 菜海 (学2)
	吉原 更紗 (学2)	小川 真未子 (学1)			
村男	西澤 一透 (学2)	鈴木 孝太 (学2)	伊勢 幸平 (学2)		

第二幕

ジゼル	志賀 育恵				
アルブレヒト	黄 凱				
ヒラリオン	浅井 永希				
ミルタ	岡本 茉衣佳 (学2)				
ドゥウイリ	泉水 友里 (学3)	樋口 咲弥 (学1)			
ウイリ	富田 真起子 (学3)	深澤 京花 (学3)	藤井 美和 (学3)	渡邊 奈々穂 (学3)	朝井 美菜満 (学2)
	伊藤 千夏 (学2)	清水 みな (学2)	住吉 杏菜 (学2)	山田 百花 (学2)	浅見 有紀乃 (学1)
	伊藤 わこ (学1)	植村 萌香 (学1)	佐藤 綾香 (学1)	高山 まり (学1)	丹 奈菜子 (学1)
	三矢 知世 (学1)	森山 晶帆 (学1)	山元 祥子 (学1)		

舞台スタッフ

演出・振付	安達 悦子 (プティバによる)			
音楽	アドルフ・アダン			
指揮	井田 勝大			
指導	加藤 浩子	信田 洋子	草間 華奈	黄 凱
	小林 洋壱	沖田 貴士		
特別指導	金井 利久			
照明	中沢 幸子 (梶ライティングデザイン)			
衣装	東京シティ・バレエ団、アトリエヨシノ			
映像	合同会社 シンクロトロン・スタジオ			
音響	アートスタジオY's			
装置	ユニ・ワークショップ			
舞台監督	浅田 光久 (麻稀企画)			
企画・制作	洗足学園音楽大学・公益財団法人東京シティ・バレエ団			



🎵 ジゼル 🎵
志賀 育恵



🎵 アルブレヒト 🎵
黄 凱

グローバルクラス



内田 理菜 (学3)



大北 有華音 (学3)



黒住 千裕 (学3)



泉水 友里 (学3)



富田 真起子 (学3)



深澤 京花 (学3)



藤井 美和 (学3)



渡邊 奈々穂 (学3)



朝井 美菜満 (学2)



安達 茉那 (学2)



伊藤 千夏 (学2)



伊勢 幸平 (学2)



大川 菜々子 (学2)



岡本 茉衣佳 (学2)



清水 みな (学2)



鈴木 孝太 (学2)



鈴木 優花 (学2)



住吉 杏菜 (学2)



中田 友美 (学2)



西澤 一透 (学2)



樋口 絵莉花 (学2)



町田 菜海 (学2)



山田 百花 (学2)



吉原 更紗 (学2)



浅見 有紀乃 (学1)



伊藤 わこ (学1)



植村 萌香 (学1)



小川 真未子 (学1)



佐藤 綾香 (学1)



丹 奈菜子 (学1)



高橋 葵 (学1)



高山 まり (学1)



樋口 咲弥 (学1)



三矢 知世 (学1)



森山 晶帆 (学1)



山元 祥子 (学1)

あらすじ

第一幕

ぶどう畑が連なるチウリンジアの丘の谷間を縫って流れるラインの川ほとりに、ジゼルという美しい村娘が、働き者の母と二人で静かに暮っていた。シレジアの公爵アルブレヒトは、以前通りかかった村で見初めた娘ジゼルの元へ、身分を隠し、名前をロイスと変えて、人目を避けて城からやってきた。忠実な従者ウィルフリードは戯れをいさめるが、アルブレヒトは彼を追い返す。一方、ジゼルに想いを寄せる善良な森の番人ヒラリオンは、気持ちを打ち明けられずにいた。ロイス(アルブレヒト)はジゼルを誘い、愛を誓う。ジゼルは初めてのときめきに恥じらいながら、ロイスの誓いが真実かどうか、花に託して二人の恋を占う。「愛している」「愛していない」……。不幸な結果に肩を落とすジゼルは、ロイスに慰められて笑顔を取り戻す。

偶然にも二人の愛の語らいを見てしまったヒラリオンは、押さえきれぬ嫉妬にかられて思わずジゼルの前に立ちふさがり、愛を告白する。身を引いて事の始終を見守っていたロイスは、戸惑うジゼルに迫る森番を遮る。ヒラリオンはロイスの高貴な迫力にたじろぎ、悔しさを残して立ち去って行く。

ぶどう畑で穫り入れをしていた村の娘たちが森に帰ってくる。娘たちはジゼルを誘い、ロイスと共にワルツを踊る。ジゼルの母は、心臓の弱い娘の身を案じて、激しい運動や気持ちの高ぶりを避けるように日頃から気を配っていた。そして踊り好きな娘に、昔からこの地方で語り継がれてきた恐ろしい伝説——結婚前に命を落とした娘はウイリ(死霊)となり、夜な夜な踊り狂い、通りかかった若者を踊らせ死にいたらしめる——を言い聞かせていた。踊ってはいけないという母の忠告を受け、ジゼルはロイスに心を残しながらも家に入っていく。

狩りに訪れた領主クーランド公とその一人娘バチルドの一行が、休息のためにこの村を訪れる。ジゼル一家は、思いがけない貴族の一行を迎えて丁重にもてなすと、バチルドは美しく可憐な娘ジゼルを気に入り、しばらくジゼルの家で休むことにする。

ヒラリオンはロイスの隠した紋章入りの立派な剣を見つけ、ロイスの身分を知ってしまう。村では、収穫の祭が賑やかに始まった。収穫の女神に選ばれたジゼルは、母から特別に踊ることを許され、ロイスと共に収穫を祝って踊る。その時ヒラリオンが現れ、ロイスが実はシレジアの公爵であることを村人たちに暴露する。そこへ表れたバチルドの手に、もはや偽り続けることのできなくなったアルブレヒトがキスをすると、人を疑うことを知らなかったジゼルは錯乱し、激しい動悸におそわれる。生涯にたった一度の恋の記憶をたどりつつ、死の世界からささやきかけるウイリの声に導かれるように、ジゼルはついにアルブレヒトの腕の中で息絶える。

第二幕

月明かりに照らされた夜の森。その森の沼地は、ウイリ達の支配する死の世界である。ウイリの女王ミルタは、ミルトルの枝を取って、ウイリ達を呼び集めて儀式を開き、新しく死の世界にやってきたジゼルに、ウイリの靈魂を吹き込む。ウイリの力を得たジゼルの魂は、地を離れ、次第に高く飛翔して森に飛び去る。

失意と後悔の念に打ちひしがれたアルブレヒトが、ジゼルの墓を訪れる。そのときアルブレヒトは、ふとジゼルの気配を感じ、彼女の名を呼びながら墓地をさまよう。ジゼルはやさしい幻影となってアルブレヒトの前に現れ、死の世界であるこの墓地に長くとどまらぬよう、彼を導いていく。そこへ、やはり後悔にさいなまれたヒラリオンが訪れるが、ウイリたちに踊り狂わされ、命乞いもむなしく沼に突き落とされ、息絶える。

ウイリたちはアルブレヒトの後を追うが、死してもなお彼を想うジゼルは、ウイリの魂よりも強い愛の心で、ウイリたちが何よりも怖れる十字架の型をした墓の前に彼を導く。アルブレヒトの無事を一心に祈るジゼルは、ウイリ達の輪に閉ざされて踊り続ける。アルブレヒトが精根尽き果てて倒れたとき、夜明けを告げる鐘が森に鳴り響く。夜の闇が朝の光りに破れ、ウイリ達は音も無く消えていく。

アルブレヒトは、ジゼルを抱き寄せるが、ジゼルの幻影は彼の腕を静かにすり抜ける。二人の愛が本物となった今、ジゼルの魂は天に召され、ウイリとして夜の墓場をさまようことはもはやない。

朝の光に包まれていく森にひとり残されたアルブレヒトは、生と死の世界を貫く真実の愛を知った引き替えに、永遠の別れを心に刻む。



洗足学園音楽大学

ひと、音楽、未来、世界をつなぐ。

洗足学園音楽大学は、音楽の学びと実践を通じて、
豊かな社会づくりに貢献します。